

# 第13回神奈川大学フランス語翻訳コンクールを終えて

国際日本学部 国際文化交流学科 熊谷 謙介

2025年11月、神奈川大学フランス語翻訳コンクールは今年も開催されました。今回13回目で、赤ちゃんも中学1年生にまで成長するくらい年月が経つ感じですが、形式としては変わらず、課題となるフランス語の長めの文章を和訳するというシンプルなものです。神奈川大学の全フランス語クラスの先生に呼びかけて、ポスターを学生たちと共有し、そこにあるQRコードを読み取って、翻訳にチャレンジしていきます。

初級・入門（フランス語1年目）クラスにはあまり難しい文法や表現が入った文章は出せないのですが、どうしても授業でまだ扱っていない文法も入れざるをえません。ただそれをポジティブにとらえて、むしろここで初めてぶつかって、自分なりに調べて身につけてもらいたい、というのが、出題者の意図になります。今回はフランスの大学生のライフスタイルに関する文章にしました。フランスの大学生は学費やアルバイトなどの点で、日本の大学生とはかなり異なる状況にあること、また、けっこう勉強しないと卒業できないシビアな環境にフランスの大学生が身を置いていることを知れば、日本の大学生もがんばる（さらに、で

す）のではないかという期待もありました。バイトをある程度時間以上すると、学業に支障をきたしかねないのです、という最後の文は、日本の学生へのメッセージにもなったかもしれませぬ。

難しい表現もありましたが、答案を見ると多くの場合うまく訳せていました。一つ二つの訳ミスで順位が決まるという接戦でしたが、最近の語学の授業であまり扱わない翻訳の世界に足を踏み込んだだけでも、経験値があがったのではないのでしょうか。

中級・応用以上（フランス語2年目以上）クラスには、日本を代表する小説家・綿矢りさの、高校生たちの心情をヴィヴィッドに伝える芥川賞作品『蹴りたい背中』のフランス語を和訳してもらいました。フランス語に翻訳、出版されている作品を、また日本語に訳し戻すという、意地悪な(?)課題でした。ただ、学生にとっては高校でのうわさ話や理科の実験の授業など、ちょっと前に自分たちも体験した身近なことをフランス語で読み取るわけで、いつけん異質に見えるけど何だか「分かる」感覚を味わったのではないかと思えます。外国語を勉強するのは、異世界を知るためという

のは大原則でありつつも、自分たちの世界を外国語で発信するというのも、語学の一つの重要な務めです。

こちらは既習文法など配慮せず、実際に使われるフランス語であったので、かなり苦労したと思いますが、予想以上に意味を正確にとらえています。また、意味を理解するだけでなく、それを自然な日本語として表現することも必要になりますが、それも十分に果たしていました。語学の授業で文学作品をとりあげることがほとんどなくなった時代に、このような言葉の機微をいかにく発揮したものに触れるのは、機械翻訳の時代にあって、むしろ重要なことなのではないでしょうか。それは文学研究を専門とするわたしとしても、その面白さ、喜びをぜひとも伝えていきたいものです。

今回も神奈川大学人文学会から予算をいただき、入賞者にQRコードを利用する図書カードを贈呈することができました。最近では国際日本学部文化祭補助予算という枠組みを使わせてもらっていますが、参加資格については、国際日本学部の学生だけでなくフランス語を勉強している神奈川

大学の学生全員になります。スピーカーコンテンツや語劇のように、観客を前にしたイベントではありませんが、参加者一人ひとりが、一つひとつの訳語の選択に情熱を傾ける、意外に熱い祝祭であると自負しています。

最後に、今回参加した学生たちの感想の一部を紹介させていただきます。こうした声は「地域言語から新しい世界へ」と題した、神奈川大学共通教育センター・地域言語教育部会サイトでも日々伝えていきますので、世界の多様な言語に関心があるみなさんには、ときどきチェックしてもらえるとうれしいです。

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/education/liberalarts/language/regionallanguage/>



初級部門に参加しました。講義では聞いたことのない単語が多く圧倒されましたが、意味や語順を調べながら、新しい単語が身につけられるように意識しました。また、文章を通してフランスの学生のお金事情について知ることができ、親近感も感じられました。コンクールを通してまだ知らなかったフランスに触れることができました。さらにフランス語の学習に力を入れていきたいと思っています。

(A. N.)

フランス語を翻訳していくと大学の学費が日本

と比べてとても安いことに驚きました。そのような日本との違いを知りながら翻訳できたので自然とベンが動きました。また翻訳していく中で英語と似ている単語もちらほら確認できたので他言語同士の繋がりを感ずることができました。フランス語を上達できるように今回翻訳した単語を忘れずに頑張っていきたいです。

(H. F.)

初級部門で参加しました。今年初めてフランス語を勉強し始めましたが、授業内では翻訳コンクールで見たような長文を読んだり翻訳したりする機会が無かったので、良い機会だと思い応募してみました。分からない単語や文法を調べ、自然な日本語訳ということを意識して翻訳しました。初めての挑戦で自然にできなかった部分もあるので、是非次回も参加したいと思います。

(M. K.)

初級・入門以上の部門に参加しましたが、想像していた以上に難しく感じました。単語の意味をそのまま当てはめても上手く訳せず、文全体の内容やニュアンスを考えて自然な日本語にすることが難しかったです。しかし、段々訳していくと同じ表現を見つけれられて、達成感を感じることが出来ました。また、今回の翻訳コンクールを通してフランス語をさらに学びたいという気持ちにつながりました。また機会があれば、参加したいです。

(M. H.)

初級でしたが、翻訳するために単語を調べ、そ

れがどのように文中で使われるのかを知る機会になり、フランス語を学び始めた私にとってとても良い機会になりました。自然な日本語にするために、フランス語のフレーズを学ぶこともでき、少しですが成長できたように感じます。

(T. O.)



言わずと知れたエッフェル塔、いつも観光客でいっぱいのスポットですが、むしろそのバック、初秋の空の雄大さにも注目してもらいたいところですよ！  
(2025年9月撮影)